

島の元気を皆さんにお届け!

～地域の魅力をサポートします～
われら地域おこし協力隊

岩首集落担当 **服部 綾子**

昨年から地元の女性にご協力をいただいて佐渡の農産物や昔ながらの手仕事の魅力を伝える活動を始めました。

岩首と赤泊に今年は羽茂木戸集落の「ばあ」も加わり、7月下旬に自慢の夏野菜を箱に詰めて都会のお客さんに送りました。そこには1人1人の思いを込めた手書きのお便りを添えています。

お客さんからは「祖母からの仕送りみたいで懐かしい」「お手紙に癒されました」と好評です。来島できず寂しい思いをした方にも喜んでいただけました。



直売は、初めてで戸惑う方もいましたが、思いのほかお客さんの反応が良かったので、早くも「次は何を送ろうか」との声も聞かれました。島の元気を届けることが皆さんのやりがいにつながっていくといいなと思っています。

☎地域振興課地域振興係 ☎63-4152

市立病院から こんにちは

両津病院 院長 石塚 修先生 診療科目/内科

カルテについて

① 当院のカルテは、紙に直接記載するカルテです。最近主流となっている電子カルテに対して紙カルテと呼ばれています。カルテの保存期間は、法律では5年間となっていますが、当院に現在通院中の患者さんに関しては、昭和50年代後半からの記録も外来カルテに残っています。約40年間の患者さんの病名、検査結果、薬や点滴の内容、アレルギーなどの内容が一冊にまとまっています。病気の診断には、今までの病歴や検査結果との比較が参考となります。

また、効果のあった薬、効果の無かった薬、アレルギーを起こした薬の記録は治療方針を決定する際に非常に有益な情報です。長年、紙カルテを使用してきましたが、紙カルテにも欠点があります。

② 医師の字が読みにくい点。以前は、ドイツ語、英語、日本語などが混在しており、医師以外は、解読不能な場合も見られました。

② カルテの移動や保管場所が必要など。職員がカルテをもって診療科を移動するため、移動時間が必要です。また、長期にカルテを保管する場合、広い場所の確保が必要となり、年々場所の確保に苦慮します。これらの欠点を克服するために、電子カルテが必要とされます。

電子カルテを導入するための費用や維持費は高額となり、病院の経営に影響を与えます。しかし、より安全性の高い医療を行うため、電子カルテの導入の検討が続いています。次回は両津病院の岩谷先生です。

